

# すべてが美しい音への執念。音を知りつくした製作者の 厳しい目が、手が、音楽のいぶきを捜しあて、音を磨き込む。

まず原材料の木に厳しい目向けます。ギターが音が決まる原点だからです。ギターは、90%以上が木で作られています。そして、音色、耐久性など、ギターの要素のうち、半分以上を原材料が左右しています。それだけに、原材料「木」にまず厳しい目向けました。コシの強い、木目のつんだ木を厳選、なかでも音色や音量にいちばん影響を及ぼす、表面板には第1級のスプルースを採用。さらには、すべて一枚ずつ、製作者の厳しい目で確認、最高の素材だけを採用するという念の入れようです。コモリがない、高低音のバランスがよいと評価されるのも、こうしたモーリスの木に対する厳しさの所産には違ありません。

5年にも及ぶ歳月を費やして、自然乾燥。じっくりと枯らす音づくり。厳選し集められた原材料は、強制乾燥ではなく、風通しのよい日陰で自然乾燥されます。木そのものが持つ水分や樹脂分が良い状態にわたって抜けるまで、じっくりと待つのです。木はじっくりと乾燥し、そして「枯れ」てゆきます。原材料の乾燥は、枯らすことのひとつの方法なのです。モーリスは、その枯らす乾燥になんと5年にも及ぶ歳月を費やしました。3年前後が一般的といわれるなかで、これは驚異的に息の長い仕事です。弾きこなすほどに音色が良くなるギターの神話を変え、初めて手にしたときから素晴らしい音をお約束します。

音の素性を決定づけるスプルース表面板に、第1級の質を求めました。表面板は、音のほとんどを決める、といえるほどの影響力をもっています。モーリスはこの表面板に、厳しい目で選んだ1級のスプルース及び松を使用します。年輪は規則的で間隔がきちんとしている。目幅も細かい。この最良の素材がもつ音の素性を余すところなく引き出す努力を惜しみません。厚みはどうか、アールの付け具合はどうか…。音を熟知した製作者が1枚づつ、この最良の素材を厳選、決定してゆきます。そして、この表面板の一部である力木にも、表面板と同じスプルース及び松を使用。これは、一般に余り木を使うなかにあって無類のことです。

木地の接着にも、音を知りつくした、モーリスのノウハウが息づいています。ギターの接合部分には実に多く、どのポイントをとってもすべて接着剤で接合されます。モーリスは、この接着剤にニカワを採用。木地と木地の接着には、すべてニカワを使用しています。ニカワは、木の毛管繊維に入り込んで接着し、音の伝達性に秀れているからです。合成接着剤のように容易に接着するものとは違い、時間もかかる、手間もかかります。しかし、音の伝達性のよいギターをつくるには、やはりこうするしかありません。特に、ネックの接着は、明らかにニカワに勝るものではなく、長年の張力にも狂いがなく、安定性も増します。

ネック1本とっても、語り尽せない程の伝統の技術が注がれています。モーリスのネックは、ヘッドから継ぎ目なしの一本木取りです。ヘッドとネックを継ぎ合わせたものでは目が揃わない、音の通りもそれだけ悪くなるからです。そして、ネックは機械削りだけではなく、熟練の製作者の手によって1本1本、最も弾きやすいシェープへと微妙なアールをつけ調整します。また、フレットの打ち込みは、ネック、指板をボディへ接着後に行ないます。指板のままフレットを打ち込みますと、完成後アジャスタブルを締める過程で狂いが生じ、正確な音程がとれないからです。伝統あるギターづくりの技術をフルに注ぎます。

1本のギターの塗装に3週間、無類の長さで丹念に仕上げられています。音色に微妙な影響力をあたえる塗装には、入念すぎるほどの作業を施しています。下塗り、中塗り、仕上げ塗りと何度も繰り返し塗るにはスプレーだけではなく手塗りが採用。1回塗るごとに自然乾燥、研磨を行ないます。現代の塗装術からすれば、1回ごとの乾燥は必要ないにもかかわらず、より品質アップのためにじっくり自然乾燥させています。特に、塗装でいちばん大事な下塗りには、手塗りでしっかりと塗装。これをしっかりとやらないと、いくら上塗りで美しくとも音が生きてこないからです。実に3週間、長い作業が続きます。

